会 議 報 告 書

会議名	令和5年度第2回三郷市地域包括支援センター運営協議会		
日 時	令和5年11月20日（月） 午後1時30分～午後2時40時	場 所	保健センター分室2階 第一会議室
次 第	1. 開会 2. 新委員紹介【資料1】 3. 議事 (1) 審議 ①三郷市地域包括支援センター職員の変更等について【資料2-1】【資料2-2】 【当日配付資料A】 (2) 報告 ①令和5年度三郷市地域包括支援センター実地検査結果について【資料3-1】【資料3-2】 ②令和6年度三郷市地域包括支援センターの受託意向調査結果について【資料4】 (3) その他 4. 閉会		
出席者	【会 長】谷口聡 【副会長】清水美代子 【委 員】鈴木昌弘、小林真人、南幸一、白石憲雄、岩井新一、山口典子 【地域包括支援センター】長島所長（みずぬま）、樋口所長（早稲田）、樋口所長（ひこなり北）、石本所長（みさと中央）、磯所長（みさと南）、柴田所長（しんわ） 【事務局】原山千恵（いきいき健康部理事兼副部長）、中村一之（介護保険課長）、茂木光司（長寿いきがい課長）、斎藤嗣幸（長寿いきがい課長補佐兼長寿いきがい係長）、久保田恵子（長寿いきがい課主任）、岡本宇美（長寿いきがい課主任）、小笠原郷太（長寿いきがい課主事） 【傍聴人】0人 【欠席者】寺田慎委員、丸井明美委員		

●審議事項における確認事項

議事

(1) 審議

①三郷市地域包括支援センター職員の変更等について・・・・・・・・・・承認

(2) 報告

①令和5年度三郷市地域包括支援センター実地検査結果について・・・・・・・・承認

②令和6年度三郷市地域包括支援センターの受託意向調査結果について・・・・承認

令和 5 年度第 2 回三郷市地域包括支援センター運営協議会 議事内容

1.開会

- 谷口会長あいさつ
- 原山理事あいさつ

2.新委員紹介【資料 1】

- 新委員紹介

3.議事

(1) 審議

- ①三郷市地域包括支援センター職員の変更等について 【資料 2-1】 【資料 2-2】 【当日配付資料 A】 (非公開)

承認

(2) 報告

- ①令和 5 年度三郷市地域包括支援センター実地検査結果について【資料 3-1】 【資料 3-2】

事務局

【資料 3-1】全体評価 1、組織運営体制等について説明する。年度末に三郷市が来年度の運営方針を運営協議会で提示し、来年度に包括が運営方針に基づいて事業計画等を作成している。包括は三郷市が示した運営方針に沿って、事業計画と取り組みにおける重点項目を設定して、実施に努めている状況を確認した。適正な人員配置に努めているが、専門職については募集をしても応募がない状態が続いている。三郷市としては、令和 5 年度より事務職加算が付けられるようになったが、引き続き加算対応として業務手当の確保増額に努めていきたい。

人材育成としては埼玉県センター職員対象の研修が少なく、センター業務の基本的スキルを習得する機会を現場に頼る現状にある。引き続き埼玉県への研修を要望していくと共に三郷市が主催する研修についても包括の希望を取り入れ、現場のニーズに即した内容で開催していきたいと考えている。

続いて個別業務についてご報告する。総合相談支援については、複合的な課題を持つ世帯への相談が増えており、他分野の相談機関と協議をしながら対応している。令和 4 年度については、介護離職に関する相談を受けたという包括はなく、包括に相談が入った時には、既に離職をしていたり、元々無職である場合が多い状況となっている。複合的な課題を持つ世帯への対応については、地域包括係が包括の活動後方支援する役割として、引き続き関係部署との横断的連携に努めていきたいと考えている。保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員のそれぞれの能力が最大限に発揮されるように、市として職種別の会議や事例検討会研修の開催が必要と考えているが、こちらについてはまだ取り組みができていないので、今後の課題としていきたい。また複合的な課題を持つ世帯については増えている実感があるものの、件数としてまだ把握ができていない。今後は相談件数を把握し、地域の実態や相談件数の推移の把握をしていきたいと考えている。

次に権利擁護業務についてだが、三郷市高齢者虐待対応マニュアルを三郷市と包括で共有しながら、虐待対応を行うことができている。包括と三郷市が共同で支

	<p>援に当たる場合、スピード感を合わせてほしいと希望される包括もあった。やむを得ない事由による措置を実施する際には、三郷市職員も同行訪問したり、包括と共同して支援に当たるよう取り組んでいる。また課内でも危機管理意識を共有し、タイムリーな対応ができるように努めている。</p> <p>地域ケア会議については、多くの包括が感染予防に留意しながら、対面での地域ケア会議を再開した。包括ごとに個別事例の検討や地域課題の検討など、地域の特徴を反映した地域ケア会議を実施している。三郷市としても地域の実情に合ったよりよいケア会議ができるよう、研修の実施や助言者の調整、費用面での支援を続けていきたい。また、地域の専門職全体のスキルアップを目指し、市内の居宅介護支援事業所、介護サービス事業所にも自立支援型地域ケア会議の参加の促しを行っている。</p> <p>最後に総括について説明する。複合的な課題を持つ世帯が増加しており、障がいや子ども生活福祉分野などと連携するケースが非常に増加している。三郷市の担当としての関係機関や専門職との連携を強化できるよう努めていくと共に、相談件数の把握を行うことで、地域の実情把握に取り組んでいきたい。コロナ禍で減少していた対面での事業も、感染予防対策を講じながら再開している包括が多く、包括の強みである、顔の見える関係性を活かし、関係者との連携協働を進めている。今後も包括を中心にネットワークを形成し、高齢者が安心して生活できる地域作りができるように努めていく。包括の給付管理は増加を続けており、重要な地域活動に注力することに困難を感じている包括が多い状況である。ケアプランの委託が進むよう、三郷市として統一した委託基準等を作成していくと共に介護支援専門員協議会にも協力の依頼をし、包括が地域活動に注力しやすい体制作りに取り組んでいく。</p> <p>包括における専門職の人員配置の要件などについては、国の動向を注視して情報収集を進め、体制の整備に努めていきたい。【資料3-2】については、毎年国の評価項目に各包括が回答している資料なので、参考としてご覧いただきたい。</p>
谷口会長	<p>事務局の説明に関して、ご意見等あるかたはいるか。 清水委員いかがか。</p>
清水委員	<p>全体評価の利用者満足度の向上について、文章内容の把握の仕方を確認したい。事務所の移転により相談者のプライバシーが確保された包括があったということは、事務所を移転した時にプライバシーは確保されている、いたという意味か。</p>
事務局	<p>移転する前は事務局が手狭だった包括があり、相談のスペースが狭くなっていて他の相談者が来てしまうと対応が難しい包括があったが、移転後はその相談スペースがきちんと確保できるようになったという内容である。</p>
清水委員	<p>ありがとうございます。 それから、【資料3-2】介護予防ケアマネジメントの介護予防支援 Q58～Q62の中で、ほとんどの包括が居宅介護支援事業所への委託を行っているということで、前回委託します、しませんと課題になった記憶があるが、これは本当にそのままなのか。</p>

事務局	実地検査で確認した所、6 包括中 5 包括が委託を進めているという状況だった。
清水委員	残り 1 包括は、受ける居宅介護支援事業所が少ないという問題もあると思うが、基本的に自分の所で実施するという方針を変えてないということか。
事務局	そうである。
谷口会長	他にご意見のあるかたはいるか。
山口委員	<p><u>【資料 3-2】Q19 夜間・早朝の窓口を設置し、窓口を住民にパンフレットやホームページ等で周知していますか。</u></p> <p>ほとんどの包括が設置しているという回答で、設置していない包括が 1 包括あったが、設置している包括は早朝や夜間に相談はあるのか。利用者によっては、早朝・夜間できないと連絡できないというケースもあると思うが、どれ位利用しているのかお聞きしたい。</p>
谷口会長	記憶にある症例はあるか、柴田所長いかがか。
柴田所長	包括しんわの時間外の電話は、通常通り包括にかけていただくと、転送電話の方に繋がり、記憶にある限りでは今年の 8 月と今年の 9 月の夜間帯に、既に介入しているケースのご本人から連絡があった。認知症のかたで、いつ三郷市の配食サービスを入れたのか忘れてしまい、その日に食べる食料がなく困っているという相談だった。今年度の時間外に関しては、半年で 2 件と解釈している。
山口委員	ありがとうございます。
清水委員	<p><u>【資料 3-2】Q66 認知症初期集中支援チームと訪問支援対象者に関する情報共有を図っていますか。</u></p> <p>令和 4 年度認知症初期集中支援チームはあると思うが、ほとんどの包括で事例がなく連携がないが、使いづらいということなのか。事例がないとはあまり思えない。</p>
事務局	突然認知症の事例が表面化してくるケースは、包括で早い段階で相談を受け、地域等きちんと把握しており、徐々に上手く介入ができてることが多い。今年度はそのような話が長寿いきがい課に 1 件入ってきて確認等進めたが、最終的には初期集中支援チームを使わずに済んだことがあった。必ずしも認知症初期集中支援チームの活動が多ければいいということではないと感じている。
清水委員	困難ケースで介入が難しい時に、認知症初期集中支援チームが動くと感じていた。制限があったりすると使いづらいかもしれない。
樋口所長 (ひこなり北)	今年度包括ひこなり北が認知症初期集中支援チームを利用した。先程茂木課長も話されたように、先に三郷市に相談があったことと包括ひこなり北の職員が全員出払っておりすぐに対応できなかったのが、認知症初期集中支援チームに先に入っていたというのが経緯である。今までも利用したことはあるが、包括内である程度対応ができるので、利用しない、利用するケースが少ないという印象である。
谷口会長	<p><u>【資料 3-2】Q32-1 前年度 1 年間の相談件数についてその内容別に入力してください。</u></p> <p>包括みずぬまと包括早稲田は、2. 介護予防・生活支援サービスに関することの相談件数がゼロになっていて、分からないからゼロにしていると思うが、他の包括は</p>

	かなり 200 件と多い数になっており、実際肌感的にどの位あるのか長島所長と樋口所長にお聞きしたい。
長島所長	正式にカウントしているものがなかったなので、ゼロとした。ただ、実際は介護に関することの中で、予防に関することはかなりの件数で相談があり、時間も多くなっている。
樋口所長 (早稲田)	きちんとこれに相当するカウントが取れていなかったのがゼロとしているが、長島所長と同じように肌感覚としては結構ある。4 包括と変わらない件数という肌感覚がある。
谷口会長	【資料 3-2】Q34-1 家族介護者からの相談について、前年度における相談件数を入力してください。 包括みずぬまと包括みさと中央がゼロとなっているが、家族からの相談は多くあると他の圏域を見ると感じるが、長島所長と磯所長いかがか。
長島所長	カウントの仕方として、介護をしているのかしていないか分からなくてゼロとした。家族からの相談はかなりあるが、別で暮らしている可能性もあり、そのかたが介護者かどうなのか分からなかった。本人からの相談もあるが、家族からの相談も他の包括同様に増えている。
磯所長	介護離職防止の観点についてゼロとしている。家族からの相談は常時、介護負担軽減に関する事、介護者の健康状態に関する事等日々相談を受けている。
谷口会長	介護離職に関する事はなかったという意味か。
磯所長	そうである。
谷口会長	包括によってカウントの仕方が違うので、質問の方法を変えたほうがいいかもしれない。 【資料 3-2】Q50 センター主催の地域ケア会議において、個別事例について検討していますか。 包括みさと中央は個別事例の検討があまり出来ていないが、理由等あるか。
石本所長	個別事業については、事例検討会を 2 ヶ月に 1 回実施しているのでそこで個別事例についても検討している。地域の課題を考えようということで地域ケア会議を開催した。
谷口会長	事例検討会は別の所で開催し、あえて地域ケア会議では違うテーマで実施したということよろしいか。
石本所長	そうである。
谷口会長	この点についてもパッと見た感じだと包括みさと中央は実施していないように見えてしまうので、少し質問の幅を広げる等工夫した方が標準化的にはいいかもしれない。細かい所だが、差がある所に着目した。 南委員、何か気になる点等あるか。
南委員	私は居宅介護支援事業所のケアマネをしているが、包括とは時々勉強をしながら活動している。私の印象としては、包括の中でそれぞれカウントの仕方や考え方が違ってくると認識したが、ただ共通する部分はほぼ一緒だったので、ぜひ今後も連携を取りながら一緒に取り組んでいきたいと思う。

谷口会長	「複合的な課題」という言葉が出現し、今キーワードになりつつあるが、これに対する説明が分かりにくい所もあるので、三郷市の考えとしてどのようなことを想定しているのか教えていただきたい。
事務局	今年度相談を受けているケースで、祖父母の介護が必要な状況で、子どもが精神障害の手帳を持っており、他課と連携を取りながら介入している。要介護者であるべき子どもが病院に通っていない状況で状態がはっきりしないケースや相談の場を設けても自分の心配や自分のことに集中してしまうケース、また自分の親の介護に対して執着しすぎて一生懸命になりすぎてしまうケースなど多世代に渡ったケースがある。また、3世代が一緒に生活をしているが、介護をどのようにしていくのか難しいケースもある。果たしてその家族が地域でどこまで生活を続けられるのか、どのようなフォローが必要なのか等包括だけで解決するのは難しい。今年度もそのようなケースが何件かあるので、障がい福祉課やふくし総合支援課、生活ふくし課と連携を取りながら進めていくことを想定している。今後更にこのようなケースが増えてくると思うので、包括をフォローできるように行政側も考えてきたい。
谷口会長	その複合的な課題に関し、包括もたくさん相談があると思うが、何か例示できるようなケースはあるか。長島所長、複合的な課題はあったか。
長島所長	40歳代の対象者もいるが、そうするとそのかたの子どもは成人していない。子どもが小学生というケースもあり、介護や障がい、子どもの支援をしながら進めている。学校側と障がいの担当者が連携を取っているケースもある。介護者のかたが精神疾患で、引きこもっているかた、言い方は悪いが自宅がゴミ屋敷で、誰の物か確認をすると息子という返答で、その息子は仕事しているが部屋の片付けができない。片付けをすると分かるそうで、怒るとのこと。仕事もしているので、障がい手帳は持っておらず、明らかに障がいを持っているのかどうかも分からない。病識がないかたなので、病院にも行かず、包括は障がいの相談員と同行しながら母親と関わっている。息子は私達が来ると逃げてしまい、会ってもらえない状態が続いている。今父母に関してはヘルパーやデイサービスを入れて、ケアマネに様子を見てもらっているが、息子が今後どのようにしていくのか本当に読めないケースがある。
谷口会長	包括みさと南は、実際に福祉に繋がった子どもの症例はあったか。
磯所長	<p>まず先程課長が説明された3世代が一緒に生活をしているが、介護をどのようにしていくのか難しいケースがある。これについては、不適切な環境でそれぞれケアが必要な祖母、孫が生活していることをどのように判断するのかということで児童相談所の介入もある。不適切な環境でかなり危機も生じている状況で、これを在宅生活し続けるのかさせないのか行政措置も含めた検討が必要だという所で、子ども支援課も入ったカンファレンスをしたケースがある。</p> <p>また実際に障がいの認定を持っていて、障がいの計画相談員が関わっているが、その計画相談員がモニタリングもしていない、関わっていないケースで、男性の子どもの支援に困っていることが、私達の所に相談が入る事例もあった。計画相談員と一緒に息子の支援をアセスメント仕直し、繋ぎ直しをするケースもある。</p>

	<p>先程長島所長も話したように障がいの認定を全く受けてないが、私達から見ると多分軽度知的発達障害だろうと思うかたや軽度のIQボーダーだと思うような子ども達が暴力をしていたり、生活の世話をしていないなどがある。</p> <p>他には、アルコール依存の診断は出てないが、スクリーニングでチェックしてみると明らかに依存症と私達は判断できるが、需要に繋がらないケースをどのように繋いでいくか、どこが主体になって動くのか、そのような時には常にカンファレンスしながら役割分担をしているケースが結構ある。</p>
谷口会長	複合的な家庭も結構あるということだったが、包括としてはハブ的な役割を果たそうとしているのか。それとも主体となって会議を開いているのか。
磯所長	誰がコーディネートするのか主体になる所が行政も含めて、今そのようなラインがはっきりしていない。問題意識を持った者が全体のコーディネートをせざるを得ないというのが実態で、私達の場合には問題意識を持ったのは私達なので、私達がコーディネートをするという考え方で動いている。
谷口会長	もしかしたらその福祉の方が、包括に声をかけてくることもあるのか。
磯所長	そうである。
谷口会長	非常に難しい段階に入ってきていて、そこを何とかしなければいけない状況である。そのようなことに対して、包括が能力・マンパワーにおいてやる力があると思う。今なかなか深い所まで話が進んだが、岩井委員はそのような家庭を見て分かるものか。
岩井委員	外からは、なかなか分からない。
谷口会長	白石委員どうか。
白石委員	少し前に私が担当したかたで、息子が引きこもりだったが、やはり母親が寝たきりまではいかないが怪我をしており、包括をお願いをしてケアマネ、介護事業所と連携してサービスを提供していた。しかし問題は引きこもりの息子をどうするかで、民生委員の仕事としてそこまで対応できないということで包括にお任せのような形にせざるを得ないような状況だった。
谷口会長	公的な包括に繋がり、そこから更に広がっていくと思う。第一線の方々はそのままでいいと思うし、連絡を密に取れる状態であればいいと思う。小林委員はいかがか。
小林委員	今の所そのような症例にあったことはない。もしあるようなら関係部署と相談しながら、葉の面から関わっていきたい。
谷口会長	時々クリニックにそのような怪しそうなかたが来院し、1人は包括みずぬまにお世話になったが、大変なことになった人もおり、その虐待が疑われる段階でクリニックが包括に連絡するのは正直とても悩む。本当は警察にもすぐに連絡するべきなのかもしれないが、難しいと思っていて、とてもセンシティブな問題なので、病院の場合は特に悩むことが1年間に何回かある。

	<p>包括に情報を入れるのが道筋として示されていけばこちらとしても非常にやりやすい。患者や利用者や第一線に当たる人が包括に連絡をすると、そこから障がいや福祉に繋がるのはとてもいいアイデアだと思う。複合的な課題に対してこれからも色々な発展的な物事があると思う。</p>
山口委員	<p>居宅介護事業に移行していく話がしばらく前からあったが、6圏域中1包括はそれをやっていないが、それ以外の包括は委託をお願いしているということだが、なかなか委託を受けてくれる居宅介護支援事業所が少ないことが問題になっている。居宅介護支援事業所に受けてもらえるようにするには、どうしたらいいかが今後の課題になる。その課題は、お金をたくさん出せばやってくれるのかということではないと思う。私もよく分からないが、居宅介護支援事業所のケアマネはたくさん患者や利用者を担当している。包括もケアマネのような業務もこなさなければならぬ。そこをどのように調整していくのかは、今後三郷市としてどのような方向性を持っているのか。</p>
事務局	<p>法改正等に注視しながら、予防給付について居宅介護事業所においてできるような体制を作るために私達でどんなフォローができるのか検討を重ねていきたい。</p>
谷口会長	<p>次の議題に移る。</p>
<p>②令和6年度三郷市地域包括支援センターの受託意向調査結果について【資料4】(非公開)</p>	
<p>承認</p>	
事務局	<p>谷口会長、ありがとうございました。</p> <p>本日の報酬の支払いについては、12月5日(火)を予定している。振込口座の変更等があれば事務局まで連絡をお願いします。</p> <p>次回については2月19日(月)を予定している。詳細が決まったら、事務局より通知させていただく。</p> <p>閉会のことばを清水副会長からお願いします。</p>
<p>4.閉会</p>	
<p>○清水副会長あいさつ</p>	